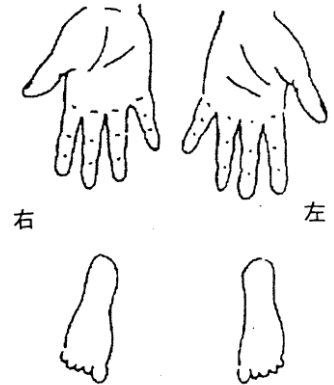
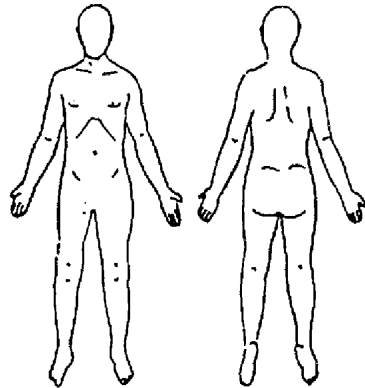


医学的意見書			(肢体不自由用)	
氏名		大正・昭和 年 月 日生		
住所	埼玉県	郡 町 市 村		
① 障害名 (部位を明記)				
② 原因となった 疾病・外傷名	交通、労災、その他の事故、戦傷、戦災、自然災害 疾病、先天性、その他 ( )			
③ 疾病・外傷発生年月日	年 月 日	場所		
④ 参考となる経過・現症 (エックス線写真及び検査所見を含む)				
障害固定又は障害確定 (推定) 年 月 日				
⑤ 障害認定所見	障害程度 ( 級相当) 〔 軽度化による将来再認定 要 ・ 不要 〕 (再認定の時期 年 月後 )			
⑥ その他参考となる合併症状				
更生医療	期間	入院 日間・通院 日間 ( 回)		
	事前検査 ・ 具体的方針 ・ 効果			
補装具	新・再・修	名称 ・ 処方 ・ 効果		
	所見			
年 月 日		医療機関名 所在地 診療担当科 医師名		印

神経学的所見その他の機能障害（形態異常）の所見（該当するものを○で囲み、下記空欄に追加所見記入）

1. 感覚障害（下記図示）：なし・感覚脱失・感覚鈍麻・異常感覚
2. 運動障害（下記図示）：なし・弛緩性まひ・痙性まひ・固縮・不随意運動・しんせん・運動失調・その他
3. 起因部位：脳・脊髄・末梢神経・筋肉・骨関節・その他
4. 排尿・排便機能障害：なし・あり
5. 形態異常：なし・脳・脊髄・四肢・その他

参考図示



変形  
  切断  
  感覚障害  
  運動障害

(注) 関係ない部分は記入不要

右		左
	上肢長cm	
	下肢長cm	
	上腕周径cm	
	前腕周径cm	
	大腿周径cm	
	下腿周径cm	
	握力kg	

6. 歩行能力の程度 (                    m)
7. 起立位 (                    分)
8. 座位 ( 可 ・ 不可 )
9. 動作・活動 自立—○ 半介助—△ 全介助又は不能—×、  
(    ) の中のものを使う時はそれに○

寝返りする		シャツを着て脱ぐ	
足を投げ出して座る		ズボンをはいて脱ぐ（自助具）	
いすに腰掛ける		ブラシで歯を磨く（自助具）	
立つ（手すり、壁、つえ、松葉づえ、義肢、装具）		顔を洗いタオルでふく	
家の中の移動（壁、つえ、松葉づえ、義肢、装具、車いす）		タオルを絞る	
洋式便器に座る		背中を洗う	
排せつの後始末をする		二階まで階段を上って下りる（手すり、つえ、松葉づえ）	
（はしで）食事をする（スプーン、自助具）		屋外を移動する（家の周辺程度）（つえ、松葉づえ、車いす）	
コップで水を飲む		公共の乗り物を利用する	

注：身体障害者福祉法の等級は機能障害（impairment）のレベルで認定されますので（    ）の中に○がついている場合、原則として自立していないという解釈になります。

- 注1 上下肢の欠損の場合は、欠損部が上腕、前腕、大腿又は下腿のそれぞれ1／2以上であるか否かを明記すること。
- 2 指の欠損の場合は、各指骨間関節（IP、PIP、DIP）の残存の有無を明記すること。
- 3 上記6・7・8の部分については、補装具、つえ等を使用しない状態で記入すること。

計測法：

- 上肢長：肩峰→橈骨茎状突起                    前腕周径：最大周径  
 下肢長：上前腸骨棘（脛骨）内果                大腿周径：膝蓋骨上縁上10cmの周径（小児等の場合は別記）  
 上腕周径：最大周径                                下腿周径：最大周径

関節可動域 (ROM) と筋力テスト (MMT)		(この表は必要な部分を記入)	
筋力テスト ( )	関節可動域	筋力テスト ( )	関節可動域
↓	↓	↓	↓
( ) 前屈 ( ) 前屈		後屈 ( ) 後屈 ( )	
右		左	
( ) 屈曲 ( ) 外転 ( ) 外旋 ( ) 屈曲 ( ) 回外 ( ) 掌屈		伸展 ( ) 内転 ( ) 内旋 ( ) 伸展 ( ) 回内 ( ) 背屈 ( )	
( ) 屈曲 ( ) 屈曲 ( ) 屈曲 ( ) 屈曲 ( ) 屈曲 ( ) 屈曲 ( ) 屈曲 ( ) 屈曲		伸展 ( ) 伸展 ( ) 伸展 ( ) 伸展 ( ) 伸展 ( ) 伸展 ( ) 伸展 ( ) 伸展 ( )	
( ) 屈曲 ( ) 外転 ( ) 外旋 ( ) 屈曲 ( ) 底屈		伸展 ( ) 内転 ( ) 内旋 ( ) 伸展 ( ) 背屈 ( )	
備 考			
注: 1. 関節可動域は、他動的可動域を原則とする。 2. 関節可動域は、基本肢位を0度とする日本整形外科学会、日本リハビリテーション医学会の指定する表示法とする。 3. 関節可動域の図示は、 のように両端に太線を引き、その間を矢印で結ぶ。強直の場合は、強直肢位に波線 ( ) を引く。 4. 筋力については、表 ( ) 内に × △ ○ 印を記入する。 × 印は、筋力が消失又は著減 (筋力0.1.2.該当)		△ 印は、筋力半減 (筋力3該当) ○ 印は、筋力正常またはやや減 (筋力4.5該当) 5. (PIP) の項母指は (IP) 関節を指す。 6. DIP その他手の対立内外転等の表示は必要に応じ、備考欄を用いる。 7. 図中塗りつぶした部分は、参考的正常範囲外の部分で反張膝等の異常可動はこの部分にはみ出し記入となる。  例示 (×) 伸展  屈曲 (△)	